

日蓮大聖人御書全集

じょうらくがじょうごしよ

常樂我淨御書

新版
2163

じようらくがじようごしよ

常樂我淨御書

い たま しよだいじようきよう 勘 い じつぼう

出でさせ給いて諸大乘經をかんがえ出だし、十方の

じようど た いっさい しよほう じようらくがじよう うんぬん

淨土を立て、一切の諸法は常樂我淨と云々。

とき ごてんじく じゆうろく たいこく ごひやく ちゆうこく じゆうせん

その時、五天竺の十六の大国、五百の中国、十千の

しようこく むりよう ぞくさんこく もろもろ そうじようきよう むりようむへん てらでら

小国、無量の粟散国の諸の小乗經の無量無辺の寺々の

しゆそう いちどう はち ほうき あり じゆじゆう いかずち

衆僧、一同に蜂のごとく蜂起し、蟻のごとく聚集し、雷

鳴 渡 いちじ じゆじゆう こうべ 合 歎

のごとくなりわたり、一時に聚集して、頭をあわせてなげ

い ほとけざいせ ごてん げどう われ ほんし きようしゆ

いて云わく「仏在世にこそ、五天の外道、我らが本師・教主

しやくそん 争 ほとけ ひとり げどう たぜい

釈尊とはあらそいしか。仏は一人なり、外道は多勢なり

げどう

蟻

ほとけ

りゅう

ししおう

しかども、外道はありのごとし、仏は竜のごとく、師子王

責

勝

たま

のごとくましませしかばこそ、せめかたせ給いしか。これ

めみよう

ひとり

われ

は、それにはにるべくもなし。馬鳴は一人なれども、我ら

似

たにん

よ末

あく

強

ぜん

弱

は多人なれども、代すえになれば悪はつよく善はゆわし。

ほとけ

ざいせ

げどう

ぶつぼう

すいか

仏の在世の外道と仏法とは水火なりしかば。